

合唱団ホームページアドレス <http://www.wiengifu.org>

# 音楽とは横への感性なり!

2  
月号

2018年2月1日  
編集・発行/  
ウィーン岐阜合唱団

岐阜の街 <sup>おとたの</sup>ウィーンの如く 音楽し 作：音楽総監督 平光 保

## ウィーン岐阜合唱団 創立20周年を迎えて

当初、季節合唱団としてニューイヤーコンサートで集まった合唱団員。2~3ヶ月の練習なら入ってみようかと200人以上の人達と“青きドナウ”を長良川国際会議場で演奏したのが始まりです。

2回目の公演の後、一層のこと定期的な合唱団にしようとして発足したのが、ウィーン岐阜合唱団です。始めてみると歌える方は既成の合唱団に戻り、残った方はほとんど合唱経験の無い方です。今からは信じ難いレベルからのスタートです。それから20年間の伸びは目を見張るべくまでの成長です。先日のオペラ「杉原千畝物語」では、東京のセミプロの方々と肩を並べられる程に成長いたしました。これは偏に伴和子、真由子先生のご指導の賜と深く感謝しております。特に、和子先生は遅咲きの方で、皆様と同じ様な年代から本格的な声楽の勉強を始め、世界の“第九”のソリストと渡り歩くレベルにまで成長されました。この事は皆様もその可能性が秘められている事

を意味します。年齢と共に体力が落ちる事は仕方がないことです。後はその効率をいかに高める事に興味を持たなければなりません。それは余分な力を抜く“脱力”にあります。ピアノも“脱力”のおかげで音色がよくなり、若い時には弾けなかったトリルが自然に弾けるようになったと喜んでおられます。

プロ野球の選手仲間では、“グランド”にいくらでもお金が落ちている。と言われておます。ウィーン岐阜は、音楽の宝石箱ではないでしょうか。指揮者の音楽作り、発声、伴奏者、オーケストラの醸し出す音楽を身近に感じられる合唱団はどこを見渡してもあり得ません。この環境を無駄にすることなく、音楽の本質を見抜きながら、創立30周年に向けてさらなる成長を夢見しています。

ウィーン岐阜管弦楽団・合唱団  
音楽総監督 平光 保

### 1998年2月 ウィーン岐阜管弦楽団・合唱団 誕生

歌が好きな高校生以上の方なら、どなたでも入団できる全ての壁をとり払っての合唱団誕生です。岐阜新聞の“ぎふの仲間たち”で取り上げていただきました。



ウィーン岐阜合唱団 10年のあゆみ 記念誌より

# オペラ人道の桜に出演して

ウィーン岐阜合唱団 副団長 見田村 勝信

今から 79 年前のカウナス日本領事館。そこは前夜から、ポーランドから逃げてきた多くのユダヤ人が集まってきていた。2 階の窓からガラス越しに千畝は外を見る。そこで彼が見たのは、いたたまれない様子で領事館を仰ぎ見る多くの人々。あどけない少年や少女は父や母の裾にすがる。

ビザをください。お願いします！助けてください。私たちは彼らの役を演じるために、思いをめぐらした。

あるものは“ヨゼフ”ワルシャワで大工を営みながら地下組織で反ナチ活動をするが、1939 年 7 月のドイツポーランド侵攻により、着の身着のまま妻とカウナスへ。また、あるものは‘ナオミ’教師をしていた彼女は、ナチスのワルシャワ侵入と同時に夫と子供とともに避難。途中夫はスパイの嫌疑をかけられドイツ兵に射殺されました。子供の手を引き、やっとのことでここまで逃げて来ました。

32 人の私たち参加者の誰もが自分の役作りに真剣に取り組みました。

総合プロデューサー鳴海優一さんの「合唱は音を一つにすることだが、オペラは全員が主役」との言葉を胸に刻み練習を重ねました。

オペラ杉原千畝物語「人道の桜」は杉原千畝の大学時代から現在に至るまでの足跡をオペラにしたもので、今回ピアノ演奏をされた安藤由布樹氏作曲、杉原幸子役のソプラノの新南田ゆり氏の作詞で 2015 年リリースされました。初演はリトアニアカウナス国立劇場でテロップ付きで行われ、最後は満場の拍手に包まれたとのことでした。

10 月から毎週 1 回の練習が始まり、音合わせから徐々に演技指導へと練習を深めてゆきました。最初はぎこちなかった皆も徐々に慣れ、余裕が生まれると同時に強張っていた表情も難民らしくなってきました。1 月に入ると後がないということで皆一層緊張がたかまり、自分の立ち位置の確認や、表情、手

ぶり、など全員でチェックしました。

そして 1 月 21 日には初めての東京からの出演者との通し稽古が、東京でありました。朝 7 時に県庁に車を置きバスで東京へ行き 3 時間の練習を行いトンボ返りで岐阜へ。着いたのは午後 11 時。こんなハードな練習は学生時代以降初めてとの言葉もチラホラ。

いよいよ 1 月 27 日（土）、28 日（日）の本番、事前の情報では、1 週間前にはチケット完売とのこと。ピアノの音が鳴りだし、幕が上がる。スポットライトが中央の千畝に当たる。

「私は当たり前のことをしてだけです。」で始まり、その後入れ替わりで幸子が入ります。同時に両袖に待機する私たちは全員ステージへ。皆、心の内で「さあ行くぞ！」。

幸子の「さくら」が会場全体に響き渡りました。2 時間半のオペラもあつという間に終わり、皆興奮状態で最後のカーテンコールに臨みました。万雷の拍手を浴びて！

杉原千畝は外交官としては当たり前のことをしていなかった。しかし「私は人道という点で当たり前のことをしてだけです」との言葉は私たちに重くのしかかります。

私たちは今回のオペラに出演し、地元が生んだ外交官「杉原千畝」の業績をたたえました。

しかし同時に忘れてならないのは、ホローコーストで殺された多くのユダヤ人と同じく、スターリン時代シベリアに送られた多くのリトアニアの人たち、原爆でなくなった広島、長崎の人達。また第二次大戦でなくなったアジア、ヨーロッパの多くの人達。さらにはイスラエルとの紛争で苦しむパレスチナの多くの人々等々。枚挙にいとまがありません。

今なお世界で多くの戦争が起こり、難民も数多く発生しています。

私たちがこのオペラを通じ少しでも戦争の悲劇について考える機会ができ、また聴いていただいた人にも感じていただければいいなと思いました。

## “第九”に思いを馳せる。私

岐阜本部 ソプラノ 堀 美代子

初心者の彼女（嫁）が、演奏会の終了後、感動の余韻に思いを馳せながら私に語ってくれました。「よかった、最後まで歌うことが出来た。」それは、平光先生の指揮のお陰だと……。

先生は姿・動作・手の動きで次の歌詞を教えてください。先生の指揮を見ているだけで、私は魔法にかかったみたいに歌うことが出来ました。本当に先生は素晴らしい方ですと……。実は、私が第九を歌ってみたいと言っていた彼女に声をかけ、一緒に舞台上に上がりたいという夢が実現しました、彼女も第九を通して人生にとって一歩踏み出すことができたのは、大変素晴らしいことだと思います。

ところで、私と“第九”との出会いは、20数年前、確か、1995年の秋だったと思う。かの有名な故ユーディ・メニューインの率いるメニューイン・フェスティバル：オーケストラの演奏会がサラマンカホールで催されたことがあった。とても出場は無理だと諦めかけていた時、一人の指導者の方が私にこう言われました。暗譜ができていれば大丈夫だからと。背中を押して下さり勇気を出して参加させてもらっ

た。貴重な体験として今でも心に残っている。

第九への関りから、私は、中国の杭州や西安、ウィーン、その両国や鳴門等での合同演奏会に参加する機会を得ました。第九での諸々の学びの場や交流の場を経験する事ができ、視野が広がり、喜びは言葉には言い尽くせないほど大きく感じました。その後、第九とは暫く途絶えていましたが、昨春職を離れ先ず思いついたのが第九への思いでした。

今、思うに第九での思いが頭の中をまるで走馬燈のように駆け巡り、不思議なほど第九に魅せられている自分は何故だろうか。第1楽章から第4楽章（ベートーヴェンの苦悩から歓喜に至るまでの起・承・転・結？）の各々の楽章のインパクトが強い、心に響く。残る。「これからも 歌いたい」との思いを温め続けたい。

そこで、家族に話し承諾を得、早速ウィーン岐阜合唱団に申し込み入団させて頂いた。また、ウィーン岐阜合唱団は、プロの先生方が在籍されていて、熱心に、丁寧なご指導に音楽への愛情を感じることができ、又、先輩の方々の温かい心づかいに居心地も頗る良い。基本から学べる場も提供されているので、初心に帰り焦らず、楽しく、学びながら趣味の幅を広げていけたらと、思っている。

## 平光先生との出会い 岐阜本部 アルト 棚橋 清江

平光先生との出会いは、今からうん十年前の私が中学1年生の時になります。と、言いますと、平光先生は？という顔をなさるでことしょう。正確には「平光 保」というお名前との最初の出会いです。

音楽の高みを目指す同級生がおりまして、将来ピアニストになると公言していた彼女は、平光 保という良い先生にピアノを習っているのだと誇らしげに話していました。私には始めて耳にするお名前でしたが、母に尋ねると母も先生の事を知っていると云います。それならば、矢張り有名な先生なのだと中学生の私の頭に「平光 保」という名前がインプットされました。一生、平光先生との接点などなかろうと思っておりましたが、うん十年の時を経てその機会は突然やってきました。高校の同級生が“第九”を歌う合唱団の見学に行くから一緒にどうかと誘ってくれました。それは、昨年8月のことです。そのまま気楽に入会してしまいました。後に、皆さんが真剣に頑張っている合唱団だと知ることになり、不安を抱くことになるのですが……。

そして、あの有名な平光先生の指揮が楽しく、素晴らしいことに気付く事に時間はかかりませんでした。それは“第九”演奏会の本番の少し前のことです。先生が「私の棒を見ていれば、ちゃんと歌えます。」と、度々おっしゃっていたものの、楽譜とニラメッコの私は、その棒を見る余裕がなかったのです。やっと暗譜を意識し始め先生の方をしっかりと見るようになりますと、先生の身振り、手振りが楽しくて密かに笑ってしまうことも（申し訳ありますん）ありました。私のお気に入り、こども歳時記の「クリスマス」の時、感情豊かな先生の指揮です。

今は亡き、ピアニストの夢かなわず逝ってしまった同級生に、平光先生は、とてもお元気で、こんな私が今、先生のご指導のもとで歌を歌っていますよと……。報告したいです。

最初に、平光 保という名前を教えてくれた彼女にも。優しく、元気な諸先輩を見習いまして、私も楽しく歌い続けていけたらと、思っています。どうぞ、よろしくご教受お願いいたします。

# 2~4月練習予定

練習時間は18:45~20:45です。(18:30には集合しましょう!!)

月日	岐阜	月日	大垣
2月 8日 (木)	長森コミュニティーセンター	2月 9日 (金)	大垣市南地区センター
2月15日 (木)	長森コミュニティーセンター	2月16日 (金)	大垣市南地区センター
2月22日 (木)	長森コミュニティーセンター	2月23日 (金)	大垣市南地区センター
3月 1日 (木)	長森コミュニティーセンター	3月 2日 (金)	大垣市南地区センター
3月 8日 (木)	長森コミュニティーセンター	3月 9日 (金)	大垣市南地区センター
3月15日 (木)	長森コミュニティーセンター	3月16日 (金)	大垣市南地区センター
3月22日 (木)	長森コミュニティーセンター	3月23日 (金)	大垣市南地区センター
3月29日 (木)	長森コミュニティーセンター	3月30日 (金)	大垣市南地区センター
4月 5日 (木)	長森コミュニティーセンター	4月 6日 (金)	大垣市南地区センター
4月12日 (木)	長森コミュニティーセンター	4月13日 (金)	大垣市南地区センター
4月19日 (木)	長森コミュニティーセンター	4月20日 (金)	大垣市南地区センター
4月26日 (木)	長森コミュニティーセンター	4月27日 (金)	大垣市南地区センター

## 最愛のウィーン岐阜合唱団の皆様へ

この度の、オペラ「杉原千畝物語」岐阜公演の期待を超えた大成功、これはもう言うまでもなくウィーン岐阜合唱団の皆様方のお力の結晶に他なりません。あんなに素晴らしく舞台上で歌い演じて頂いて、……。何とお礼を申し上げたらよいのでしょうか。

私は、昨年秋にウィーン岐阜合唱団の皆様方と初めてお目にかかりました時、こんなチームワークの厚い皆様方なら、大成功間違いなし、と直感で感じ取りました。第九もミサ曲もオペラも、人間同士の大きいなるアンサンブルだと思っていますが、豊かな調和のアンサンブルを実現するにはチームワークが一番近道です。それをとことん身に付けておられるウィーン岐阜合唱団の皆様は、第九であろうとオペラであろうと、何を演奏しても成功しないわけではない、私はずっとそう思っていました。そして、正に私が思っていたとおりにになりました。見事すぎるほどの本番を実現して下さった皆様方に言い尽くし難いほどの感謝をお伝えいたします。本当に、本当にありがとうございました。

今回、もう一つ大変感銘を受けましたのは、平光先生と伴先生のお心の広さ、音楽に託された奥深い愛情です。お二人の先生は、この街に良い音楽を根づかせるための土壌を耕やすことに、長い年月、どれほど骨を折ってこられたことか、深く感じ取りました。お二人の先生方が整えてこられた土台がなかったら、今回のオペラ公演はきっと実現しなかっただろう……そう思います。

実は私は、日本リトアニア友好協会の理事をしております、(坂水さんが事務局長です) 皆さんが第九で日本とリトアニアの友好を深めてくださるのを、この目に焼き付けるために、5月のリトアニア公演を、一観衆として拝聴させていただきます。カウナスのコンサートホールでお会いしましょう。2月25日の創立20周年を祝う会にはお伺いすることができませんが、心を込めてお祝いの電報をお送りさせていただきたいと思っております。7月の演奏会には、岐阜に伺わせていただきたいと思っております。

最後になりますが、ウィーン岐阜合唱団の皆様方の益々のご活躍とご健康を心からお祈りさせていただきます。この度は、誠にありがとうございました。皆様方を心から愛しています。

オペラ「杉原千畝物語」 作曲家 安藤由布樹